

【川内原子力発電所 ～再稼働までの道のり～】

年 月	川内原子力発電所の 状況・申請の経緯他	主な 当社対応工事	トピックス
H23.3	東日本大震災発生・福島第一事故		
H23.5	1号機定期検査 発電停止		●火力では定検期間を短縮し原子力の停止に対応
H23.9	2号機定期検査 発電停止		
H23.12			●緊急安全対策に係る技術力向上訓練開始
H24.4			●緊急安全対策要員配置 運用開始
H24.7			●ストレステスト対応が終わったものの再稼働がみえない状況
H24.9	原子力規制委員会発足		
H24.12			●膨大な設備追加工事においては、干渉物への対応が難題
H25.4			●イグナイタ(電気式水素燃焼装置)の設置は格納容器頂上(高さ約70m)に計器設置とケーブル敷設を行った。
H25.5			●川内への応援者増加に伴い、応援者の労務管理や常駐管理職の負担軽減のため、原子力部長・玄海次長・G長を派遣する管理サポートを開始
H25.7	新規制基準施行 原子力規制委員会へ新規制基準適合性に係わる審査申請		●非常に広範囲な追加工事の実施が必要となる ●新規制基準対応工事として火災防護・電路確保・溢水対策他、多数の工事が発生
H25.8			●火災防護の感知器増設約3,500箇所 ●当社事務所の目の前にあった海水ポンプエリアの橋型クレーンが解体・除却される。
H25.11			●玄海・川内での新規制基準対応工事で足場材他機材が社内リースだけでは相当な量が不足。必要数の1/3(約77,000点)を社外リースで対応。
H26.1			
H26.2			●協力会社の要員不足に対し、新規協力会社約90社に協力要請。
H26.3	原子力規制委員会による優先審査発表		●中野事業所長(当時)ご逝去。
H26.4			●国の川内原子力発電所 優先審査の発表を受け、川内へ全勢力を集中投入するよう九州電力殿からメーカー・グループ会社へ依頼。同時に要員・機材の確保要請。
H26.5			●格納容器スプレイングサポート耐震補強工事では、格納容器のドーム型天井に張り巡らせている配管に対する超高所作業。対策として、格納容器天井クレーン上に作業用枠組足場を設置。
H26.6			●現場最盛期。要員(協力会社含む):ピーク時 約1,600人 ●ハロン消火配管社員溶接士不足に伴い同業他社(㈱中部プラントサービス)へ溶接士応援を要請。 ●現場では至る所に足場が設置され、天井付近では足場しか見えない状況。設置も管理も大変。 ●当時の状況を表現した現場担当者の名言「犬も歩けば足場に当たる」
H26.8			●(㈱中部プラントサービス)より溶接士5名が来所
H26.9	原子力規制委員会から1、2号機の原子炉設置変更許可を受領		●重大事故等対策要員の班別訓練助勢の開始
H26.10	薩摩川内市再稼働同意		●ハロン消火設備(2号)溶接士不足に伴い同業他社3社(四電エンジニアリング㈱・東京パワーテクノロジー㈱・東北発電工業㈱)へ応援要請。
H26.11	鹿児島県再稼働同意		
H26.12			●溶接士不足に同業他社4社 合計16名の溶接士が対応
H27.1			●ハロン消火設備工事完了 ●1、2号機合計でハロンガスボンベユニット30箇所・約300本、配管総延長は約2万メートルに及ぶ。
H27.2			●追加工事発生 ●計装配管耐震工事 ●可搬型設備(移動式電源車等)を対象とした自然災害に対する固縛対策
H27.3	1号機の工事計画認可を受領		●使用前検査対応工事開始
H27.4			●使用前検査助勢開始 ●検査助勢として玄海・本店より40名応援 ●川内新規制基準対応工事として最終的に約1,400件の工事を実施。
H27.5	2号機の工事計画認可を受領 保安規定変更認可を受領		
H27.6			●重大事故対策要員を91名体制に変更
H27.7	1号機 燃料装荷		●川内再稼働対応として技術支援及び連絡体制の強化を実施。 玄海所長、次長、G長や本店原子力部副部長、G長を川内に派遣。また、本店原子力部は土日問わず連絡要員を配置。
H27.8	1号機 発電開始		●シーケンス訓練 ●鹿児島県の夏の日差しは強い。屋外の訓練続きで、訓練要員の社員は真っ黒に日焼けし汗を流していた。訓練は真剣で実践そのもの。 ●訓練後の後片付け助勢も訓練毎に協力者を募り対応。注水ホースの回収や重機を使用しての片付けは重労働であった。
H27.9	2号機 燃料装荷		
H27.10	2号機 発電開始		